

目次

第1章 総論	竹内 淳・1
I ローヤリングの概念と具体的内容	1
1. ローヤリングの概念	1
2. マクレイト・レポートにおけるローヤリングの具体的内容 の提示	2
(1) 基本的なローヤリング技能	3
(2) プロフェッションの基本的価値観	3
II ローヤリングの教育——諸外国の状況	4
1. 米 国	4
2. 英国、フランス、ドイツ	6
III 日本におけるローヤリング教育の位置づけ	7
1. 従来之法曹養成過程における「ローヤリング教育(?)」	7
2. 法科大学院制度の下でのローヤリング教育の位置づけ	8
(1) 司法制度改革において念頭におかれる法曹像——法曹養成教育 の前提	8
(2) 司法制度改革および法科大学院制度の中でのローヤリング教育 の位置づけ	10
IV ローヤリング教育の現状——教育内容・方法、教育課程に における位置づけ	12
1. 教育目的および教育内容	12
2. 教育方法——ロールプレイを取り入れた教育	15
3. 司法修習との連携	15
V ローヤリング教育の展望	17
1. 法科大学院におけるローヤリング教育の必要性和教育内容・	

方法の体系化	17
2. 法理論教育との関係	20
3. 司法試験との関係	21
4. 継続教育との関係	23

第2章

法科大学院におけるローヤリング教育の内容・方法等

宮城 哲・24

I 法科大学院におけるローヤリング科目の開講状況	24
〈資料1〉 ローヤリング科目開講状況一覧表	26
II 法科大学院におけるローヤリング教育の内容・方法等	29
1. 概説	29
(1) ローヤリングの教育内容	29
(2) ローヤリングの教育方法	31
(3) その他（配当年次、受講生数、教員スタッフ）	35
2. 各論	37
(1) 授業の準備	38
(2) 授業におけるレクチャーの実施	41
(3) 授業における見本の提示	41
(4) 授業におけるロールプレイの実施	42
(5) 授業におけるロールプレイの振り返りと講評	45
(6) 授業の復習	48
(7) 成績評価	48

第3章

ローヤリング教育の現場

50

I 東北大学法科大学院	佐藤裕一・50
-------------	---------

1. 教育体制の概要と実務基礎科目	50
(1) 東北大学法科大学院の概要	50
(2) 実務基礎科目	51
2. ローヤリング講義の概要と特徴	52
(1) 講義の目的	52
〈資料2〉 シラバス	52
(2) 講義の対象	55
(3) 講義の進め方	55
(4) 講義の主要な柱	57
(5) 講義の開講日・参加者数	58
(6) 成績評価の方法	59
3. シラバスに沿った形での講義内容の説明	59
(1) 現代の弁護士業務（第1回講義）	59
(2) 各種の法律相談における面接技法（第2回講義）	60
(3) 模擬法律相談演習（第3、4回講義）	61
(4) ケース起案の実施（第5、6回講義）	63
(5) 模擬交渉演習（第7、8回講義）	64
(6) 民事再生開始申立事件の模擬債権者説明会（第10回講義）	66
(7) 訴訟手続における民事弁護実務（第11～13回講義）	66
4. 講義におけるいくつかの工夫	67
(1) 民事再生開始申立事件の模擬債権者説明会の実施	67
〈資料3〉 債権者説明会配布資料	69
〈資料4〉 取引債務分類表（資料①）	74
〈資料5〉 再生手続開始申立書の概要（資料②）	76
〈資料6〉 直近3年間の収益状況（資料③）	78
(2) 決算書の読み方	79
(3) 1日弁護士体験等	79
5. 今後の課題	79

目次

(1) ローヤリングの位置づけ	79
(2) 生涯研修につなげて	80
Ⅱ 大宮法科大学院大学	竹内 淳・80
1. はじめに	80
2. 大宮法科大学院のローヤリングの目的およびカリキュラム上の位置づけ	81
(1) 大宮法科大学院の法律実務基礎科目の構成	81
〈資料7〉 法律実務基礎科目の科目構成 (2007年度以降)	82
(2) ローヤリングのカリキュラム上の位置づけおよび目的	83
3. 授業の展開	84
(1) 授業方法	84
(2) 各回の授業の概要	85
(3) ロールプレイによる授業方法の実際	87
4. 教材	89
(1) 教科書・参考書	89
(2) 事例教材	91
〈資料8〉 大宮法科大学院大学：民事紛争事例1——教材①	93
〈資料9〉 大宮法科大学院大学：民事紛争事例1——教材③	97
5. 成績評価	100
〈資料10〉 テイク・ホーム試験の例	101
6. 成果と問題点	103
Ⅲ 法政大学法科大学院	中村芳彦・106
1. 授業の基本的コンセプト	106
2. 授業の全体的構成と内容	107
〈資料11〉 相談・交渉・ADRの相関関係	108
3. タテ糸 (=コミュニケーションの基本)	108
(1) 身体でかかわる	108
(2) 自分を知る	110

(資料12) 自分の特徴や癖から生かすべき点を明示する	112
(3) 言葉を手がかりとして他者とどうかかわるか=伝えることの意味	113
4. ヨコ糸 (=紛争処理過程に応じた対応の習得)	115
(1) 相談	115
(資料13) 「聴くこと」を中心とした新しい相談モデル	115
(資料14) 面接の段階と技法の相関関係	117
(資料15) マイクロ技法学習の留意点	117
(資料16) 漫画による技法の説明	118
(2) 交渉	122
(3) ADR	125
5. 成績評価	128
6. おわりに	128
Ⅳ 上智大学法科大学院	森下哲朗・129
1. はじめに	129
2. ネゴシエイション・ロイヤリング	131
(1) 授業の目的	131
(2) 授業の基本的な構成	131
(3) 授業の構成	133
(資料17) ネゴシエイション・ロイヤリングの授業内容	133
(4) 教材	138
(資料18) ロールプレイ7の共通情報	139
(資料19) ロールプレイ7：依頼者役が記入するチェックリスト	143
(5) 成績評価	144
(6) 課題	146
3. 国際仲裁・ADR	148
(1) 授業の概要	148
(資料20) 国際仲裁・ADRのプログラム	149

目次

(2) 調停ロールプレイ	150
〈資料21〉 調停自己分析シート	151
(3) 依頼者との関係	153
4. おわりに	153
Ⅴ 中央大学法科大学院	木村美隆・155
1. 中央大学法科大学院におけるローヤリング科目の概要	155
(1) 中央大学法科大学院の概要	155
(2) ローヤリングのカリキュラム上の位置づけ	155
(3) 担当者と履修者数	155
〈資料22〉 過去5年間のローヤリングの履修者数	156
(4) 到達目標	156
2. 授業の運営方法	157
(1) 授業計画	157
〈資料23〉 中央大学法科大学院のローヤリングの授業計画 (2013年度シラバス)	157
(2) ロールプレイの実施方法	158
(3) 実務講師の役割	159
(4) 成績評価	160
3. 教材	161
(1) 教材作成のポイント	161
(2) 教材の実例	162
4. 現状および問題点	163
(1) ロールプレイにおける学生のパフォーマンス	163
(2) 学生の意欲	164
(3) スケジュール上の問題点	165
5. 結びにかえて——今一度原点をみつめて	165
〈資料24〉 建物賃貸借契約書（教材）	167
〈資料25〉 解約通知書（教材）	168

〈資料26〉 登記事項証明書（教材）	170
Ⅵ 桐蔭法科大学院	大澤恒夫・172
1. はじめに——「実務家のやり方」の基礎教育	172
2. ローヤリング教育の諸前提	173
(1) 教育の内容にかかわる前提	173
(2) 教員としての取組みに関する前提	176
3. 民事弁護実務の基礎——対話編	177
(1) 2年次集中授業	177
(2) シラバスに示している授業の目標	177
(3) 教室、教材、参考書	178
(4) 授業の概要	178
〈資料27〉 紛争解決の諸制度の総合的把握	180
〈資料28〉 能面ロールプレイ	186
〈資料29〉 出発点＝聴くこと	187
〈資料30〉 解決すべき課題は何か	191
〈資料31〉 「正義の総合システム」と対話	194
4. 民事弁護実務の基礎——実務編	194
5. おわりに——「法と対話の専門家」としてのハイブリッド法曹	195
Ⅶ 関西学院大学法科大学院	池田直樹・196
1. 授業の理念	196
2. 教育目標	197
3. カリキュラム	198
4. 授業の特徴的な方法——ローヤリング科目	198
5. 実際の授業内容から——2012年ローヤリングⅡの交渉事案	200
(1) 事案の概要	200
(2) 授業の進行と学生の課題	201
(3) 論点	201

目次

6. 授業の実際の進行記録	202
(1) 契約の成立の争い	202
(2) 解約の有無や成約への寄与の評価での対立	204
(3) 寄与の考慮ファクターの重み付けについての争い	207
7. フィードバックと振り返りの授業	211
8. 評価のあり方	212
(1) 平常評価（7割）	212
(2) テスト（3割）	213
9. 成果と課題	213
Ⅷ 岡山大学法科大学院 ……………井藤公量・215	
1. はじめに	215
2. ローヤリング・クリニックの位置づけ	216
(1) 授業の獲得目標——理念とのかかわり	216
(2) 岡山大学法科大学院における「ローヤリング」と「クリニック」 の定義と両者の関係	216
3. ローヤリング・クリニックの目的	217
4. 授業の内容	218
(1) 教育方法	218
(2) 実際の実施内容	219
〈資料32〉 電子カルテシステム（O-docket）	224
5. 履修条件	225
6. オリジナル教材の作成	225
7. クリニックの実施状況	225
8. クリニック案件のデータベース化	226
9. おわりに	226
〈資料33〉 評価シート（相談用）	227
〈資料34〉 評価シート（交渉用）	228
Ⅸ 福岡大学法科大学院 ……………宇加治恭子・229	

1. 設置科目の概要	229
2. 科目のねらい等	230
(1) 目的	230
(2) 達成目標	230
3. 授業の方法	231
(1) 2012年度の授業計画	231
〈資料35〉 2012年度授業計画	231
(2) 授業の形式	231
(3) 成績評価の方法	232
4. 具体的な授業の内容	232
(1) 第1回：リーガル・コミュニケーションの基礎	232
(2) 第2回：法律相談における注意点	233
(3) 第5回：相手方との交渉、裁判外での紛争解決	234
〈資料36〉 事前課題	235
(4) 第14回：刑事事件2——被疑者・被告人との接見②	236
〈資料37〉 第14回：刑事事件2——被疑者・被告人との接見②・	
ロールプレイ説明	238
〈資料38〉 第14回：刑事事件2——被疑者との接見①〈シナリオ〉	239
〈資料39〉 第14回：刑事事件2——被疑者との接見②〈シナリオ〉	243
〈資料40〉 第14回：刑事事件2——被疑者との接見③〈シナリオ〉	244
〈資料41〉 振り返りシートの形式（A4判）	246
〔X〕 琉球大学法科大学院	宮城 哲・247
1. 琉球大学法科大学院におけるローヤリングの位置づけ	247
(1) 前提として——琉球大学法科大学院の概要	247
(2) カリキュラム全体における位置づけ——カリキュラム改正	247
2. ローヤリングの目的・到達目標	248
(1) 目的	248
(2) 到達目標	248

〈資料42—1〉 シラバス：ロイヤリング（カリキュラム改正後）	248
〈資料42—2〉 シラバス：ロイヤリング（カリキュラム改正前）	251
3. 2012年度のローヤリングの授業の概要	253
(1) 授業の規模等	253
(2) 授業で使用した教科書・教材	254
(3) 授業の準備	255
(4) 授業の実施（〈資料42—1〉シラバス参照）	257
〈資料43〉 刑事ロイヤリング講義レジュメ	263
(5) 成績評価	270
4. おわりに	271

第4章

法科大学院修了生からみた

ローヤリング

Ⅰ 琉球大学法科大学院	吉村正夫	272
1. 琉球大学法科大学院でのローヤリング授業の概要		272
(1) 琉球大学法科大学院での法律実務科目の概要		272
(2) ロイヤリングの授業の概要		272
(3) 担当教員		273
2. 印象に残っている出来事		273
3. 実務で役に立っていること		275
(1) 実務で困った点		275
(2) 実務家教員の経験談		276
(3) ロイヤリングの授業で役立ったこと		277
(4) 即独にあたって		277
4. まとめ——ロイヤリング授業の意味		278
Ⅱ 福岡大学法科大学院	弓 幸子	279
1. はじめに		279

2. リーガル・コミュニケーション演習	279
(1) 「リーガル・コミュニケーション演習」の授業内容	279
(2) 「リーガル・コミュニケーション演習」の意義	280
3. 民事実務演習	281
(1) 「民事実務演習」の授業内容	281
(2) 「民事実務演習」の意義	283
4. 最後に	284
Ⅲ 関西学院大学法科大学院	太田善久・284
1. はじめに	284
2. ローヤリングの授業	285
(1) 授業の概要	285
(2) 相談事例	286
(3) 成果	287
3. 今後について思うこと	289
(1) 相談事例のレベル	289
(2) 卒業後のブラッシュアップ	290
4. 最後に	291
Ⅳ 中央大学法科大学院	石塚花絵・292
1. はじめに	292
2. 授業進行	292
(1) 第1回ロールプレイ（初回相談）	292
(2) 第2回ロールプレイ（継続相談）	293
(3) 第3回ロールプレイ（和解交渉）	293
3. 学生とのやりとり	293
(1) 法律相談ロールプレイ	293
(2) 和解交渉ロールプレイ	294
4. ローヤリングの目標	295
Ⅴ 法政大学法科大学院	齋藤成俊・297

目次

1. はじめに	297
2. ローヤリングの授業	297
(1) 授業の内容	297
(2) シミュレーションの実際	298
(3) 授業をサポートする立場から	299
3. ローヤリングで学んだこと	299
(1) コミュニケーション	299
(2) 日々の業務への反映	300
4. 今後のこと	302
Ⅵ 大宮法科大学院大学	三輪咲絵・302
1. はじめに	302
2. 大宮法科大学院での授業のカリキュラム	303
(1) カリキュラムの概要	303
(2) 授業の内容	303
3. 授業の全体的な感想	304
(1) 授業を受講する前に期待していたこと	304
(2) 実際に受講してみたの感想	304
4. 実務に出てからの面接交渉と授業との関係性	306
(1) 企業内における仕事と面接交渉技法	306
(2) 法律事務所における仕事と面接交渉技法	308
5. 今後の課題	308

第5章

海外におけるローヤリング

授業

Ⅰ NITA におけるローヤリング教育の実践	石田京子・311
1. はじめに	311
2. NITA の設立経緯とその後の発展	312

(1) 設立の経緯	312
(2) ロースクールでの NITA メソッドの採用	314
(3) 現在の活動	315
3. 方法論	317
(1) 講師陣	317
(2) 方法論：指導における3つのステップと批判のあり方	318
4. NITA の財政状況	321
〈資料44〉 2011年における NITA の財政状況	321
5. まとめ	323
Ⅱ 英国の状況	中網栄美子・324
1. はじめに	324
2. 学識課程における法学教育とローヤリング	325
(1) 学識課程における法学教育	325
〈資料45〉 オックスフォード大学法学士課程のカリキュラム	326
(2) 模擬裁判のコンペティション	327
〈資料46〉 オックスフォード大学内外で実施されている模擬裁判コン ペティション	328
(3) プロボノ活動	330
(4) 進路の選択	331
3. 非法学部生のための法学準修士コース (GDL)	331
4. バリスター養成制度とローヤリング	332
(1) Inns of Court (法曹院)	333
(2) バリスター養成コース (Bar Professional Training Course = BPTC)	333
〈資料47〉 BPP における必修科目と単位数	334
(3) Call to the Bar (バリスターとしての認定) とローヤリング	335
(4) Pupilage (実務研修) とローヤリング	336
(5) 経費共同パートナー (Tenancy)	338

5. ソリシター養成制度	338
(1) ソリシター養成コース (Legal Practice Course = LPC) と ローヤリング	339
(2) ソリシター事務所での実務研修 (Training Contract)	340
〈資料48〉 研修期間中の給与	341
(3) ソリシターとしての登録 (Admission to the roll)	342
Ⅲ 米国の状況	大坂恵里・343
1. はじめに	343
2. 法学教育改革の要請と3本の報告書	343
(1) マクレイト・レポート	344
(2) カーネギー・レポート	345
(3) ベスト・プラクティス・レポート	346
3. 法曹養成制度におけるローヤリング教育の位置づけ	347
(1) ABA ロースクール認定基準とローヤリング技能	347
(2) ロースクールにおけるローヤリング科目の展開	348
(3) パフォーマンス・テストの導入	351
4. おわりに	352

第6章

他分野の専門教育から の示唆

福島 統・354

Ⅰ はじめに	354
Ⅱ 客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination : OSCE)	354
1. わが国での OSCE の導入	354
〈資料49〉 畑尾班 (厚生労働省研究班) の活動概要	355
2. OSCE とは——英国の卒業試験 OSCE を例に——	356
(1) 英国における OSCE 試験の概要	356

〈資料50〉 卒業試験の OSCE のステーション構成	358
(2) 英国での OSCE の実際	359
3. パフォーマンス評価としての OSCE	361
4. Workplace Assessment：英国での研修医評価として	362
〈資料51〉 Mini-PAT での評価項目	363
Ⅲ 技能教育——スキルの教育	364
1. 宣言的知識と手続的知識	364
2. 技能を支える知識	366
〈資料52〉 ミラーの学習円錐	367
3. 熟達するということ	368
Ⅳ Fitness to Practise という教育	370
1. 医師としての適切な行動をとれること	370
2. 立ち居振る舞いがその人の本質を表現している	372
3. 学生支援——学生の人としての成長を支援する	373
Ⅴ 多職種連携教育 (Interprofessional Education：IPE)	376
1. IPE の導入のきっかけとなった2000年初めに英国で起きた 事件	376
2. IPE からチーム医療、そしてチーム学習へ	377
Ⅵ 最後に	379

第7章

司法修習や弁護士会での 研修との連携のあり方

亀井尚也・380

Ⅰ はじめに	380
Ⅱ 司法研修所や弁護士会での模擬法律相談研修等の実践例	381
1. 司法修習での模擬法律相談・模擬接見	381
2. 弁護士会でのロールプレイ等を用いた研修	382
〈資料53〉 模擬法律相談研修（兵庫県弁護士会）アンケート結果	384

Ⅲ 従来の法曹養成課程の特徴と問題点	384
1. 法曹養成の各課程の主な内容	384
2. 従来の法曹養成課程の特徴	385
3. 従来の支配的な発想	386
Ⅳ 法曹の統合的な継続教育の必要性	389
1. 司法制度改革審議会意見書	389
2. 「法曹の質」研究会による今後の法曹に求められる質の 検証	390
3. 新しい法曹養成課程に求められるもの	391
4. マクレイト・レポートとカーネギー・レポート	391
5. 司法修習、弁護士研修への具体的な取り入れと改革の 方向性	394
Ⅴ 司法試験改革の方向	395

第8章

法曹養成におけるローヤ リングの意義と課題

菅原郁夫・397

Ⅰ はじめに	397
Ⅱ ローヤリングの現状	398
Ⅲ 今ローヤリングに求められるもの	400
1. 司法制度改革審議会意見書の法曹像と法科大学院教育	400
2. 教育批判の視点と実務批判の視点	402
3. 新たな法曹養成の契機としてのローヤリング	404
Ⅳ ローヤリングの課題	405
1. 教育方法論の確立——現場教育から集合教育へ	406
2. 活動領域の拡大に対する対応	408
3. OJTの危機と継続教育の接点としてのローヤリング	409
Ⅴ ローヤリングの今後のあり方	410

1. 実務と理論の架橋としてのローヤリングの役割…………… 410

2. 教育内容…………… 412

3. 教育方法論…………… 413

4. 継続教育、OJT との架橋…………… 415

Ⅵ おわりに…………… 417

・ 事項索引…………… 419

・ 執筆者一覧…………… 424

凡例

〈判例集・定期刊行物略称表記〉

民集	最高裁判所民事判例集
下民集	下級裁判所民事裁判例集
判時	判例時報
判夕	判例タイムズ